

小規模事業者

経済動向調査報告書

<那珂市>

2023年10月～12月期

那珂市商工会

1. 目的

那珂市内の小規模事業者の景気動向等を分析し、その詳細な実態を把握し、市内小規模事業者に開示することで、経営に活用していただく。

2. 方法

市内の製造業、建設業、小売業（卸売業を含む）及びサービス業の小規模事業者から約 15 社をサンプルとして選出し、聞き取り調査を行う。

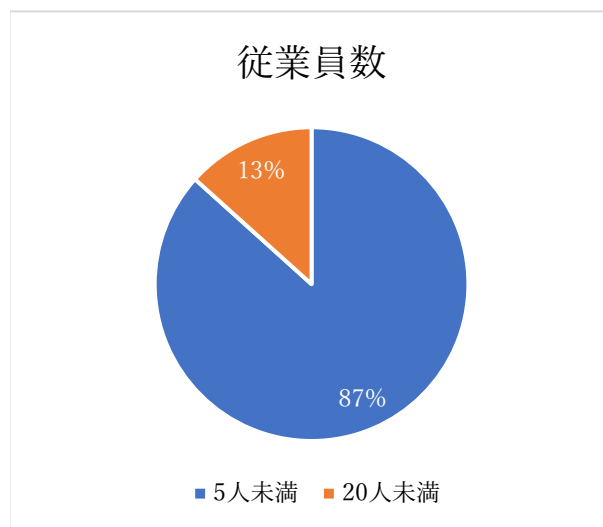
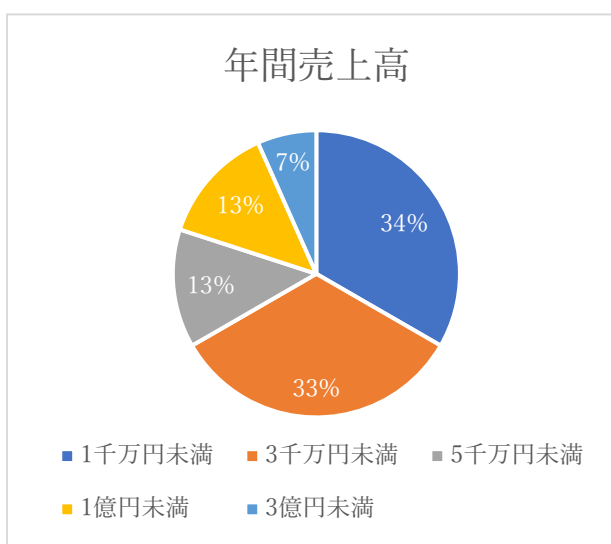
3. 調査事業者

- | | |
|---------------|-----|
| ① 製造業 | 3 社 |
| ② 建設業 | 2 社 |
| ③ 小売業（卸売業を含む） | 4 社 |
| ④ サービス業 | 6 社 |

4. 調査項目

- ① 売上高、販売単価、経常利益、資金繰り、人材確保及び景況感を聴取し、業種別に比較。
- ② 現在認識している経営課題を調査。
- ③ 近年の原油・原材料価格高騰の影響を調査。

5. 事業者の規模



I. DI 分析

表1：2023年10月～12月のDI

| | 全体 | 製造業 | 建設業 | 小売業 | サービス業 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 売上高 | -13.3% | 0.0% | 100.0% | -75.0% | -16.7% |
| 販売単価 | 6.7% | 0.0% | 50.0% | -25.0% | 16.7% |
| 経常利益 | -33.3% | -33.3% | -50.0% | -75.0% | 0.0% |
| 資金繰り | -13.3% | 0.0% | -50.0% | -25.0% | 0.0% |
| 人材確保 | 0.0% | 33.3% | -50.0% | 0.0% | 0.0% |
| 景況感 | -26.7% | -33.3% | -50.0% | -50.0% | 0.0% |

- 前回（2023年7月～9月）、業績悪化が懸念された建設業が一転して業績を回復してきた様子が窺える。前回の低迷は一時的だったとの見方も出来るが、一方で経常利益は悪化している様子も窺え、物価高騰の余波は受けているとも推測でき、今後の推移を見守る必要はありそうだ。
- 製造業は、若干回復の兆しが見受けられるが、前回は極端な急落だったため、今回は一時的に落ち着いているだけの可能性もあり、余談は許さないと言える。
- 小売業は、長く苦境を脱しきれない様子が窺える。
- 一方で、サービス業は比較的好調を維持できているが、売上高が低下傾向にあり、その点が今後どう影響するか心配される。

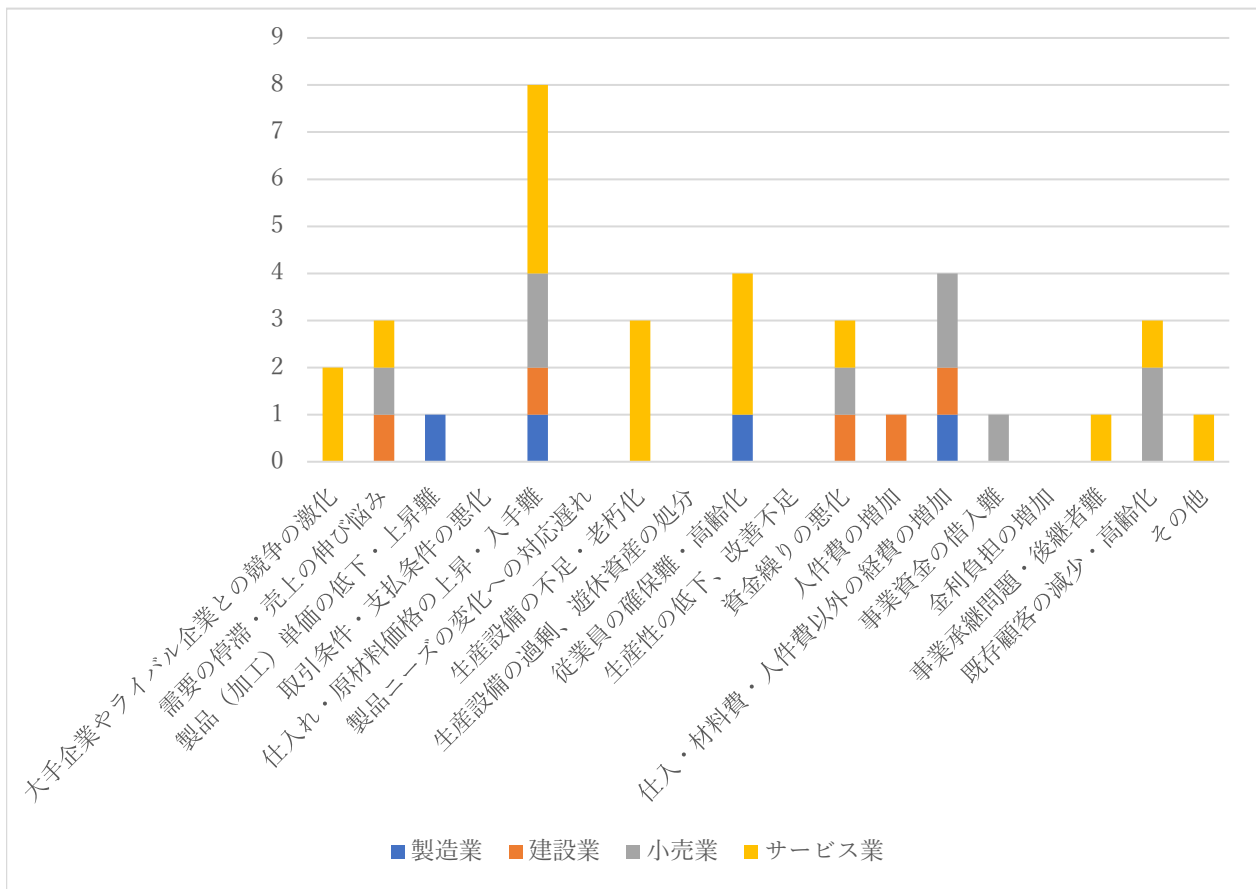
DI（業況判断指数）

景気局面の判断や、予測と景気転換点の判断に利用される景気動向指標のひとつ。業況下や景況感といった明確に数値化しにくい対象を、比較化することで景況を判定する。

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものをパーセンテージで表し、プラスは良好、マイナスは悪化として、その度合いで判定する。

II. 課題意識調査

図1 2023年10月～12月の課題意識



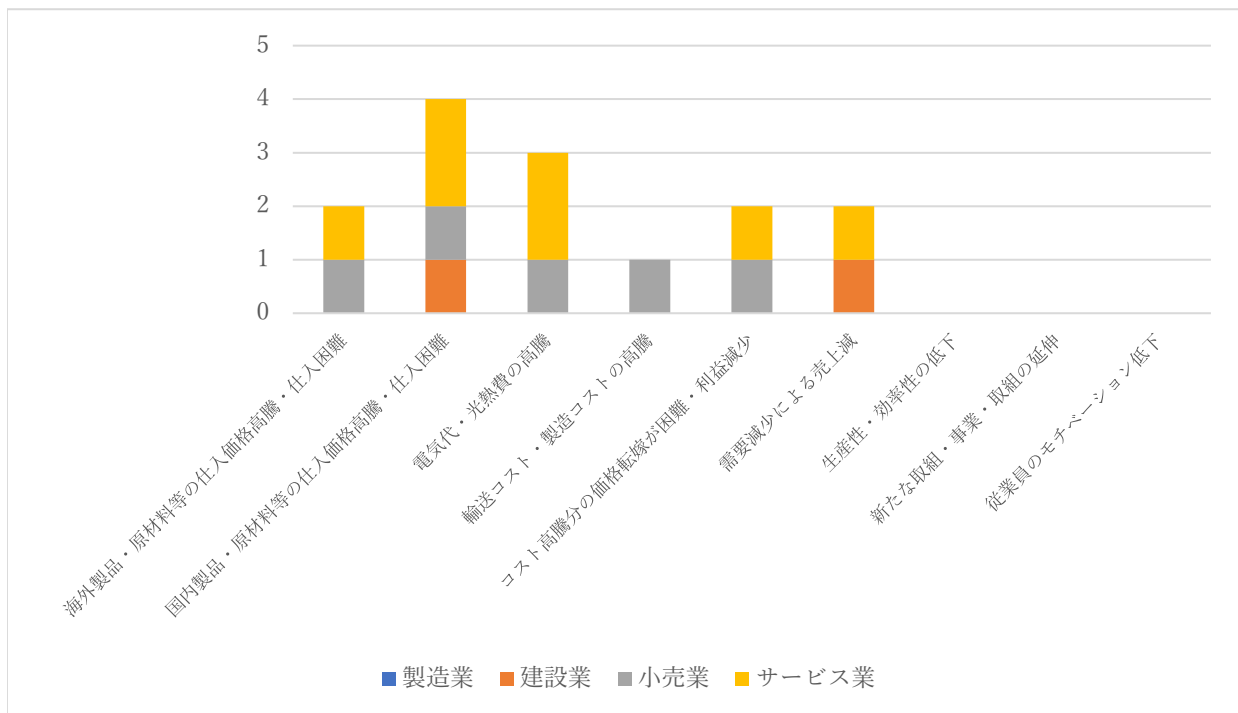
- 年間を通じてだが、仕入れ・原材料価格の高騰その他経費増の影響が全体的に暗い影を落としていると分析できる。
- 製造業において、需要の停滞・売上の伸び悩みが解消されている様子が窺える。DI値でも現れているように、売上は回復傾向にあるようだ。
- サービス業で、需要の低下・売上の伸び悩みを意識する企業が現れてきた。一方で、競争の激化は少し沈静化してきているように見受けられ、アフターコロナのリベンジ需要なども落ち着いてきた様子も窺える。DI値の売上高の低下は、そのような背景がありそうだ。

III. 原油・原材料価格高騰の経営への影響

表2 原油・原材料高騰による経営悪化状況の推移

| | 2022年 | | | 2023年 | | | |
|-------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|--------|
| | 4～6月 | 7～9月 | 10～12月 | 1～3月 | 4～6月 | 7～9月 | 10～12月 |
| 製造業 | 0.0% | 33.3% | 0.0% | 33.3% | 66.7% | 100.0% | 33.3% |
| 建設業 | 50.0% | 50.0% | 50.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 50.0% |
| 小売業 | 75.0% | 75.0% | 50.0% | 50.0% | 50.0% | 50.0% | 50.0% |
| サービス業 | 50.0% | 33.3% | 33.3% | 66.7% | 66.7% | 66.7% | 50.0% |

図2 2023年10月～12月の原油・原材料価格高騰の具体的な影響



- これまで影響が大きかった製造業及びサービス業において、原油・原材料価格高騰の影響が収束しつつあるようにも見受けられる。
- サービス業において、特に電気代・光熱費の高騰の影響が薄れている。
- 一方で、小売業では具体的な影響が認識されるようになっており、長引く景況悪化にさらに拍車をかけることが懸念される。
- 今回、建設業においても、終に原油・原材料価格高騰の影響が及んでいる様子が窺える。原材料の仕入価格の高騰や仕入難を問題視し始めている様子が窺える。DI値でも収益性の悪化が認められている。また、需要減少による売上減も感じているようだが、これについてはDI値の分析とは矛盾する結果になっている。

以上